

休日の部活動（卓球実証事業）を開始して見えてきた課題

主な課題と対応策

運営団体の体制整備

◆運営団体組織体制の構築

【運営団体（卓球協会）が担った業務】 ①指導内容・指導方針・練習カリキュラムの作成、
 ②スケジュール管理、③生徒への連絡調整、④スポーツ安全保険の加入手続、⑤指導者への謝金支
 払、⑥休日の部活動委託業務諸調整・事務等

【教育委員会が担った業務】 ①学校（顧問）との調整、②保護者への周知、③参加希望生徒の募集、
 ④休日の部活動委託業務諸調整・事務等

**課題：組織体制が整っていないと業務を担うことが困難。（組織で対応が困難な場合、業務を担う人材
 が必要）**

対応策：運営団体側：諸調整、事務を担う専任者の配置を検討。

**行政側：他の種目等への展開のためには全体をコーディネートする人材の配置を検討。（運営団
 体・学校・市との調整も必要）**

財源の確保

◆運営費用の確保

①指導者への謝金、②スポーツ安全保険、③消耗品、④その他必要な物品の購入

**課題：休日の部活動を運営していくためには一定の経費が掛かる。（本年度は市の補助により、保護者負
 担は発生していない。）**

**対応策：持続的な運営のためには一定の受益者負担（会費の徴収）が必要。ただし、受益者負担により、参
 加できない生徒が発生しないよう制度設計する必要がある。企業協賛（指導者など企業の人材の活
 用も含め）の検討。**

指導者の確保、質の向上

◆卓球協会員及び部活動指導員を指導者として依頼

①指導用動画（基本フォーム等）による指導。（準備中）

②スポーツ団体ガバナンスコード、長野県中学生期のポーツ・文化芸術活動指針、長野県地域クラブ活
 動推進ガイドライン等を遵守して指導。

**課題：技術指導だけではなく、生徒の安全、健康管理面に配慮した指導や、安全管理体制（トラブル時の
 対応）の構築。**

対応策：信州地域クラブ活動指導者リストの活用。

日本体育大学との連携協定を活用し、大学側人材による講習や指導員の派遣。

スポーツ推進委員、スポーツ少年団、関係団体等と連携し、指導者の発掘。

移動手段

◆移動手段の確保

①保護者送迎、②生徒による移動

課題：活動場所まで生徒自身で移動が困難な場合、現状、保護者による送迎に頼わざるを得ない状況。

対応策：保護者の送迎が難しい場合、公共交通サービスの活用等、移動手段について検討。

活動場所の確保

◆学校施設等の開放・管理

課題：休日の部活動の位置付けとして優先的に使用。

対応策：スポーツ開放団体等、学校施設利用希望者との調整。

鍵の管理、校内への出入りなどセキュリティの整備の検討。